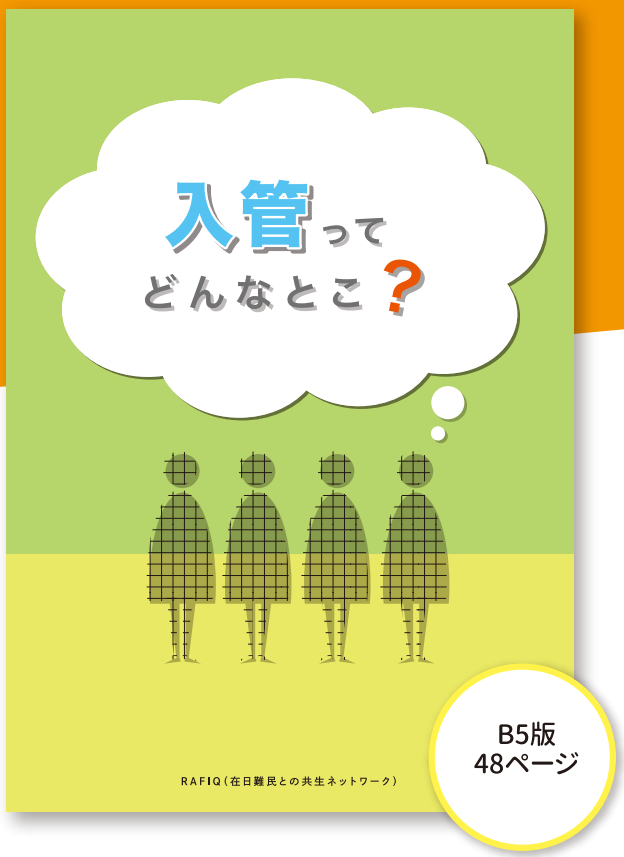
RAFIQ著書のご案内

入管ってどんなとこ？

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）著



『入管ってどんなとこ?』は、通常、私たちの目に触れることのない出入国在留管理局（入管）の収容施設について、どのような組織で、どういう法律にもとづいて、どんな仕事をしているところなのか、どんな人たちがなぜ収容されているのかなどを、分かりやすく紹介している冊子です。収容された経験のある人たちへの聞き取りや、RAFIQが毎月行っている主に難民認定申請者への面会で分かったことなどを参考に、被収容者がどんな部屋でどんな暮らしをしているのかを具体的に想像していただけるようにしました。

RAFIQの定例面会に初めて参加する方には、簡単な講座を受けてから面会室に入っていただいていますが、以前からコピー版で使用していたこの講座のテキストを大幅改定したのが本冊子です。この改定は、2019年1月にRAFIQが受賞した「第18回大阪弁護士会人権賞」の副賞の一部によって実現しました。あらためて感謝申し上げます。

入管の収容場における医療、ハンガーストライキ、自殺などの問題は、メディアでも取り上げられますが、その背景にある収容の長期化や様々な判断基準の不透明さ、一貫性のなさなどの問題について考え、日本の難民のおかれた状況を理解していただく一助になれば幸いです。

目次

1. はじめに
2. 法務省出入国在留管理庁（入管）とその収容施設
3. 収容場ってどんなところ
4. 入管に面会に行こう!
5. 入管収容の問題点
6. 入管問題に関する報道
7. もっと詳しく知りたい方へ
8. 資料

支援金500円以上でお分けしています（すべて在日難民支援に使われます）。イベントでのRAFIQ出店ブース、「OSAKAなんみんハウス」に直接お越しいただくか、rafiqtomodati@yahoo.co.jpまでご連絡ください（郵送可・送料一律500円）。

RAFIQ ホームページ

http://rafiq.jp/

推薦します！

弁護士・大阪難民弁護団　弘川 欣絵

これは、非常に実践的な冊子である。

特に、「3. 収容場ってどんなところ?」には、入管収容施設について詳細な表や図が載っていて、入管収容問題がよく理解できる。例えば、居室は外から施錠され、夕方以降は居室に閉じ込められる。居室から出られるといっても廊下があるのみ。窓から外は見えない。冷たくて変化のない食事。電話は10分1000円。常勤医がおらず、職員の判断で市販薬を処方される場合も多い…。

このような施設で、多くの外国人が法的には「無期限」の収容生活を送っているのだ。仮放免が許可される基準は無く、今はオリンピックを目前に2年、3年と収容が長期化している。この冊子を読めば、入管への収容の実態は「拷問」だということが実感として分かるだろう。そして、長期収容されている多くが難民認定申請者であることがさらに凄惨である。「1. はじめに」の出だしにあるように、RAFIQの活動は入管への面会から始まった。難民を長期収容してしまうほど、日本の難民問題は深刻だったからだ。

入管収容問題は、残念ながらRAFIQが結成された2002年から劇的な改善は無く、長期化の実態は大幅に悪化している。たくさんの人たちが入管収容問題を知り、行動することで政治を変えていく必要がある。この冊子は、その重要なツールになると思う。